

会 社 名 株式会社イーエムシステムズ
 代 表 者 名 代表取締役社長 國光 浩三
 (コード番号 4820 東証 第二部)
 問 合 せ 先 執行役員管理部長 宮城 孝誓
 (TEL 06-6397-1888)

業績予想（連結・単体）の修正について

最近の業績の動向を踏まえ、平成 17 年 5 月 18 日の決算発表時に公表した平成 18 年 3 月期（平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）の中間業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 18 年 3 月期 中間連結業績予想数値の修正（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	4,044	240	128
今 回 修 正 予 想 (B)	4,316	446	243
増 減 額 (B - A)	271	205	115
増 減 率 (%)	6.7 %	85.7 %	89.9 %
(ご参考) 前期実績(平成 17 年 3 月期中間)	3,402	87	54

2. 平成 18 年 3 月期 中間単体業績予想数値の修正（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	3,068	203	107
今 回 修 正 予 想 (B)	3,262	416	227
増 減 額 (B - A)	193	213	119
増 減 率 (%)	6.3 %	105.2 %	111.1 %
(ご参考) 前期実績(平成 17 年 3 月期中間)	2,531	59	37

3. 修正理由

当中間期の調剤薬局向けシステム事業におきましては、「Recepty」における機能が安定し充実した結果、旧製品からの自社リプレースが堅調に推移しております。平成 18 年 4 月に予想される医療改革を見据え、調剤薬局全体としましては、IT化及びネットワーク化を充実することで業務効率の向上を図る傾向にあり、依然としてシステムを活用するニーズが市場で高まっております。なかでも、ネットワーク事業のASPを活用した薬局間情報共有システム「NET-」が調剤薬局チェーンにおいて採用されることにより、「Recepty」の導入が進む等、今後の市場の囲い込みに向けて本来の商品力を発揮し始めました。それに加えて平成 16 年 11 月に発売しました「Navity」の需要も増加傾向にあります。さらに、販売費及び一般管理費につきましても、引き続き効率的運用を推進してまいりました。このような状況が売上高、経常利益、純利益に大きく寄与し、平成 17 年 5 月 18 日に開示しました中間業績予想を上回る見込みとなりました。また、単体決算の中間業績予想の修正に伴い、連結決算の中間業績予想も修正いたします。

なお、通期の業績予想につきましては現在見直し作業を行っており、中間決算発表時に公表いたします。

(注) 本資料における業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想にはさまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

以 上